

訂正とお詫び

『アルケミスト双書 毒のある美しい植物』に
下記の誤りがありました。

訂正してお詫び申し上げます。

株式会社 創元社

●16 ページ：見出し2行目

(誤) *Aconitum napellus*



(正) *Solanum dulcamara*

ズルカマラ (ビタースイート、ツルナス)

[ナス科] *Solanum dulcamara*

森林や低木林、生け垣のそば、沼地に見られる。多年生のつる性植物で、3メートルほどの高さに達することもある。刺激臭のある葉を持ち、ジャガイモの花のような小さな青紫色の花(雄しべはオレンジ色)をつけ、楕円形の赤い実を房状に結ぶ。ペラドンナほど毒性は強くないが、死亡事例がないわけではない。とりわけ子供がフサスグリの実とまちがえて食べ、死亡したケースが多い。

学名の *dulcamara* は *dulce amara* に由来し、`甘くて苦い、を意味する(英語名の *bittersweet* も同様)。そのとおり、実を食べると最初は苦いが、やがて甘くなるという。*solanum* は *solamen* から派生した語で`癒し、を意味する。この植物がハンセン病の治療に効果があったからだろう。かつて指先がひょう疽に侵されると、この実をベーコンとともにつぶして塗布したため、*felonwort* (`ひょう疽の草、の意)という別名もある。だが、皮膚から毒素が吸収される場合もあるので、家庭で試したりしないように。また、羊飼いの間には、ズルカマラは羊の群れを悪魔から守ってくれるという言い伝えがある。そのためかつて

は、魔女に狙われることのないように、羊の首にズルカマラをぶら下げていた。

紀元1世紀ごろ、ディオスコリデスは吹き出物やにきびの治療にこの植物を使った。後の時代には、結核、リウマチ、無月経にも処方されるようになった。1792年のウッドヴィルの記述によれば、ある犬にズルカマラの実を30個食べさせたところ、3時間で死亡したが、後にほかの犬にその6倍に当たる量を食べても、何の変化もなかったという。しかし過剰に摂取すれば、中枢神経系が麻痺し、呼吸器系が破壊され、いずれ発作を起こして死んでしまう。また、言語障害を引き起こす場合もある。魔女の呪いにより口がきけなくなるという話があるのは、そのためかもしれない。現在では、薬草医がヘルペス、アレルギー、粘膜関係の疾患の治療に使用している。主な毒成分は、デユルカマリンとソラニンである。